

【編集後記】

歴史の一端を伝える大震災の「記憶」

この冊子は、東日本大震災の被災、復旧、復興、創生の概略を踏まえ、この過程でさまざまな立場で震災および震災後と関わってきた方々による、一般的に言う“証言”です。しからば、表題に「記憶集」と銘打ったのはなぜでしょうか。そこには震災後10年という時間との関係性を考える必要があるでしょう。

一般的に歴史は「記録」と「記憶」で成り立つといわれます。記録はともかく、「証言」と「記憶」の間には、表現することを軸にして、「証言」には凝縮された出来事が何だったのかを明らかにするという意味合いがあります。これに比べ、「記憶」には一つの出来事を経て、流れゆく時間との関わりが深くなっています。

具体的には、歴史的な出来事となった大震災と遭遇し、どのように対応し、その後どのように震災を振り返り、何を心得て、これからの時間をどう生きるかという過程の中で、今日を迎えているところの「記憶」と言えます。

ここに登場する74人の方々の「記憶」に分け入っていくとき、その内容は多彩であり、10年の歳月の中で、それぞれに懸命に大震災と関わって、その後そのときどきで変容する記憶を携えながら、復旧、復興、創生に取り組んできた関係者の振り返りと明日への希望を抱いた道のりを読み取ることができます。

これら「記憶」の豊富さは、大震災の大きさと影響をあらためて認識することにもなりますが、もちろん、それが大震災の全てではありません。ここに記された「記憶」以外にも、民間の機関・団体や新聞、さらには地域の方々によって、それぞれ大震災に関して本やネットなどさまざまな形で表現されています。また、それ以外にも文字に表現されていない、大震災をくぐり抜けてきた市民一人一人の記憶があります。それら膨大な記憶や記録があることを忘れてはならないでしょう。

これから先、歳月を経て東日本大震災は間違いなく歴史の中へ入っていきます。この冊子につづられた「記憶」と、先に発刊した『ふるさとの復旧・復興・創生を未来に紡いでーいわき市・東日本大震災の10年』の「記録」は、歴史的に見て“合わせ鏡”のような存在です。いわきの未来人がこの2冊を読むことで、東日本大震災に思いをはせ、歴史の一瞬としての確に振り返ることができるよう願います。〔文責＝小宅幸一〕

【寄稿協力】（敬称略）

安倍晋三 吉野正芳 森まさこ 渡辺敬夫 蛭田克 長谷部誠 首藤正治 武井雅昭 久保田后子 篠田昭 高山淳一
戸高祐樹 小酒広也 和田正寛 本間浩 矢内廣 増田明美 伊澤史朗 遠藤智 植頭康裕 吉川彰浩 栗城英雄
岩村康次 鈴木賢治 古川孝一 カニンング竹山 大久保克己 遠藤和子 大沼俊之 有働幸江 根本一雄 今野隆
白石長利 小野栄重 斉藤和治 安島浩司 お食事処一膳 井上直美 ラウレア美咲 小井戸英典 大場ますみ
安部義孝 大倉智 長谷川浩一 坂本憲弘 高橋龍之 木幡都美雄 強口暢子 篠原洋貴 鈴木一 大越幸子
青木孝子 草野祐香利 木田光一 星薫雄 吉田恵美子 大谷慶一 遠藤守俊 橋本和彦 小松理虔 半澤卓
白土健二 大竹保男 木村芳秀 阿部忠直 根本信一 ベティ 新谷史明 阿部宏太郎 松本守利 金成恭一
片岡研一 遠藤喜一 江尻保広

【写真・資料提供、監修】（敬称略）

遠藤一利 おやけこういち 佐藤貴行 鈴木大 丹野稔 吉田裕徳 医療創生大学震災アーカイブ室
㈱いわきジャーナル〔月刊りい〜ど〕 いわき民報社 いわき明星大学震災アーカイブ室 小泉屋文庫 気象庁
常磐共同火力㈱勿来発電所 福島県消防防災航空隊 陸上自衛隊第8普通科連隊

※ 本誌の第1章から第3章は『ふるさとの復旧・復興・創生を未来に紡いでーいわき市・東日本大震災の10年』（いわき市総合政策部ふるさと発信課 いわき市 令和3（2021）年）を抜粋・編集の上、掲載しています。

いわき市・東日本大震災復興記憶集 ～未来に残したいあの日の「想い」・明日への「希望」～

令和3（2021）年7月発行

企画・編集 いわき市総合政策部広報広聴課

発行 いわき市

〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地

TEL 0246-22-1111(代)

URL <http://www.city.iwaki.lg.jp/>



裏表紙紹介

裏表紙写真（左）は、令和2年5月に開館した「いわき震災伝承みらい館」で開催した、奇跡のピアノ音楽会です。東日本大震災で津波に襲われ被災した豊間中学校の体育館にあったグランドピアノは、海水と砂まみれになりながらも、市内の調律師の懸命な修理によってよみがえり、「奇跡のピアノ」と呼ばれるようになりました。

裏表紙写真（右）は、いわき市の北に位置する久之浜・大久地区で震災後、毎年開催されている「東日本大震災久之浜・大久地区追悼慰霊行事」です。毎年色鮮やかな花が供えられ、亡くなられた大切な方のご冥福をお祈りするとともに、これからを生きる方々が未来に向けた想いやメッセージを綴っています。

これまでのご支援や励ましをいただき
た多くの皆様との絆を大切にしながら、
「住んで良かった、住み続けたい」と思
える故郷の「いわき新時代」を築いてい
きます。

